



れきけん ニュースレター

vol.05

写真：ニッカウヰスキー北海道工場余市蒸溜所 第一、第二乾燥棟 撮影：角 幸博 1941年

★総会のお知らせ

H27年度の総会は
6月10日（水）に
開催します。
詳しくはHPをご覧
ください。

●特集：歴史は生きる「ちから」

～公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団 ネットワーク形成事業を終えて～
東田秀美

●北海道瓦の歴史を辿る…旧北前船主の港まちと北陸瓦産地

●活動報告：れきまち・ひろば in チカホを開催

●匠の技紹介：株式会社梵陶石 林 文浩さん

●おすすめ・れきけんBook

●ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座の募集開始

●特集：歴史は生きる「ちから」

～公益財団法人 秋山記念生命科学振興財団 ネットワーク形成事業を終えて～

れきけんは、2013年春から3年間、秋山記念生命科学振興財団（以下、秋山財団）よりネットワーク形成事業助成金を受けて活動をしてきました。思えば、法人格を取る前から長きに亘りご支援を受けることができ、本当に心強い限りでした。

そもそもの思いは、東日本大震災での被災地でのボランティアがキッカケでした。被災地では、多くの命とともに地域の記憶や歴史の痕跡も流されてしまったのですが、奇跡的に残った神社や古墳、歴史的建築物などの地域資産を、復興のよりどころとしている地域の皆さんの思いに触れることができました。波にのまれてしまった神社の後に、こんな時だからこそ地域のお祭りをやりたいと、皆で新しく木を切り出して作ったばかりの真新しい鳥居。自分の家の泥かきもそこそこに、地域の拠り所だった歴史的な建物の泥かきに集まる人々とその笑顔。地域資産の保存再生を活動の源とする私でさえ、思い図ることができなかつた地域の記憶や歴史への思いとその強さに触れたときに、歴史的な地域資産がもつ生きる力、人と人をつなげる力を感じ、ネットワーク形成事業の種が生まれました。その後、秋山財団から生きるための水を得ることができて、大きく育つことができました。



れきけんでは、ネットワーク形成事業で、北海道内での4つの重要なネットワークを作り、育てることができました。4つの「れきまち・ネットワーク」は、歴史的な地域資産を大切にしたい皆さんと私たちが、共に創り続けるネットワークと言えます。

■ネットワーク1：「れきまち・ひろば」：北海道の歴史的な地域資産の保存活用に関わる活動団体や専門家、学識者やNPO法人、個人などをつなぐフォーラムを開催しています。情報交換や交流、協力関係を築く場として、1年に数回、不定期で開催しています。

■ネットワーク2：「建築ヘリテージサロン」：建築施工に関わる建設会社や工務店、れんが、石、瓦、塗装、左官など、あらゆる建築技能を有する職人の専門家集団です。道内の歴史的な建造物等の補修や改修などのご相談に迅速にお応えできます。

■ネットワーク3：「北海道ヘリテージ・マネージャーとコーディネーター」：北海道建築士会と北海道文化財保護協会とれきけんなどで作り上げた歴史的な地域資産のマネジメント職の資格制度です。平成27年2月現在で、36人のヘリテージ・マネージャーとヘリテージ・コーディネーターが全道で誕生しています。それぞれの地域で、歴史的な地域資産の価値評価や保存活用についてアドバイスしてくれる強い味方です。

■ネットワーク4：「活動団体」：道内には歴史的な地域資産の保存活用に関わるNPOなどの団体がいくつもあり、多くの仲間がいます。活動についての相談や活用の事例として参考になるとともに、これから何かをはじめたいときには大いに役立つと思います。

これから改めて考える必要があるのは、歴史的な地域資産がもつ可能性です。生きる力、人と人をつなげる力、地域活性化の力となる歴史的な地域資産を、どのように有効活用できるかがまちづくりの課題です。歴史的な地域資産の所有者や日頃気になっている方々が、宝物ともいえる資産を次世代に遺したいと思った際に、その悩みを少しでも解消できる相談役としての私たちでありたいと考えます。北海道の貴重な歴史的な地域資産が少しでも多く、次世代に継承できるようにと作った4つのネットワークを、今後も大切に育てていきたいと思っています。最後になりましたが、秋山記念生命科学振興財団の皆様に、これまでのご支援に対し深く感謝いたします。本当にありがとうございました。（東田秀美）

●北海道瓦の歴史を辿る…旧北前船主の港まちと北陸瓦産地

榎本守恵の「北海道の歴史」の一説に…志苔（しのり）館跡（函館市）の近くで三八万枚の古銭が、越前古窯と珠洲窯の甕（かま）から発見された…とある。どうも、北海道に遺る「瓦」と「煉瓦造りの建築」や「焼酎徳利（炆器）」の類を包括する北海道窯業の起源は北陸にありそうである。

上の理由から、前回報告の“寿都産を含み北海道「瓦」”のシーズを辿るべく、まずは北海道に本格的な技術移転が行われた明治期と、それらの技術移転の役目を担った北前船主の拠点であり、且つ瓦産地と重なる春の北陸を有志3人（角代表、梵陶石林社長、渡辺）で歩いてみた。

「犬も歩けば棒にあたる」の例えの通り、前回報告の寿都産「瓦」を発見した橋本家（鯉御殿）の郷里に近接する“あわら市細呂木滝地区”では、86才の高齢ながら見事にものづくりを体現している瓦職人西郡氏（鬼瓦の製作者）と出会い、古法と言われる手作りの瓦製法を知った。過っては渡職人であつた瓦師が近くの北前船の港（小浜、橋立、輪島、伏木、新潟等々）より渡道し「瓦」の種を撒いたのではと実感する機会を得た。



この類の調査（興味）は限りが無い様である。

また、調査報告と云うには検証に不足の事柄が多すぎるため、今しばらく時間を頂き次回のニュースレターにて続きの紹介とさせて頂きたい。（渡辺一幸）

活動報告：れきまち・ひろば in チカホを開催

れきけんの恒例のイベント「れきまち・ひろば in チカホ」を2月28日、札幌駅前地下歩行空間・札幌駅側イベントスペースで開催し、140名の市民のみなさまに参加いただきました。この取組みは公益財団法人秋山記念生命科学振興財団のネットワーク形成事業の助成と札幌駅前通まちづくり株式会社の特別協力を得て、歴史的地域資産を活かしたまちづくりをテーマに活動パネルや写真を展示し、市民のみなさまに「歴史的地域資産を活かしたまちづくり」を知っていただく場としました。



はじめに、当法人の代表理事である角幸博より、歴史的地域資産をこれからどのようにしていくべきかについて基調講演をし、続いて事務局・東田より「れきけん活用ガイド」（当日配布）の使い方について説明しました。後半は道内で歴史的地域資産の保存活用に取り組んでいる方々を交え、保存活用のネットワークについてパネルディスカッションを行いました。

パネラーには、ニセコ駅前の倉庫群の保存活用に関わり、ヘリテージ・マネージャーの一期生である向田薫さん、建築ヘリテージサロンのメンバーであり、道内の歴史的建築物の保存修復に尽力されている亀田工業代表取締役の亀田宏さん、角代表理事、東田が加わりました。札幌人図鑑インタビューアーとしてご活躍中の福津京子さんのコーディネートによって進められ、「れきまち」のネットワークの重要性について意見交換されました。

また会場では、寿都町の「地域の魅力写真展」と、写真家の酒井広司さん撮影による北三条通の歴史的地域資産を紹介する「Sapporo Charm Point 写真展」を同時開催。「れきけん活用ガイド」を手に取りフォーラムに耳を傾ける歩行者の方も多々いらっしゃり、「れきまち」のタイムリーなPRとなりました。（齊藤 徹）



※れきけん活用ガイドは、れきけんHPからダウンロードできます。

●匠の技紹介：株式会社梵陶石 林 文浩さん

日本では古くより建物の屋根材としてポピュラーな瓦。しかし現在、道内においては板金屋根が定着していることから、瓦は歴史的建造物に見られるものというイメージが強く、通常の建築現場で瓦職人さんを目にすることは少なくなりました。そうした北海道（札幌）を拠点に瓦施工を地道に続けている職人さんがいます。操業40年以上の実績を持つ株式会社梵陶石の代表・林文浩さんです。

明治の頃に北前船によってもたらされた瓦は、ニシン漁の繁栄とともに道内各地に広まったものの、網元や銀行家、高級役人という一部の人のみで使用できる高価なもので、庶民には手が届きませんでした。当然、需要が少なければ職人は必要とされず、長い年月放置された瓦屋根はメンテナンスもされないままに朽ち果て取り壊される運命を辿ります。林さんは、確かな技術を持つ職人が道内で育ってこなかったことが一番の原因と考えます。そのような中、瓦職人として、これまで重要文化財や歴史的建造物の改修や調査、洋風瓦の施工も含め、道内外で多くの経験を積み、現代工法を取り入れつつ、近年では寒冷の風土に適する寒地乾式工法も編み出してきました。

「屋根を守ることは建物を守ることです」といい、豊かな経験に基づいた技を守り進化させ、次世代につなげていくことが大切と考える林さん。北海道の瓦文化発展に向けて邁進中です。（登尾未佳）

○株式会社梵陶石HP: <http://www.bontouseki.com/>



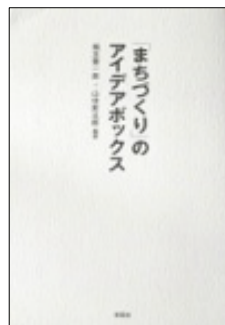
おすすめ・れきけんBook（橋本敏明）



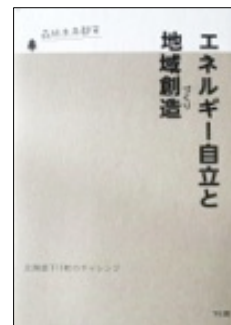
■江戸の盛り場
～江戸のアーバニ
ズムと風俗の歴
史～
■海野弘著
■発行所：青土社



■一畳敷
～幕末の探検家 松浦
武四郎と一畳敷～
■企画：INAXギャ
ラリー企画委員会
■発行所：INAX出版



■「まちづくり」の
アイデアボックス
■橋本憲一郎＋山中
新太郎編著
■発行所：彰国社



■エネルギー自立
と地域創造
～森林未来都市
北海道下川町の
チャレンジ～
■発行所：下川町



■3・11とグローバル
デザイン
～世界建築会議からの
メッセージ～
■日本建築家協会編著
■発行所：鹿島出版会

H27年 ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座の募集開始

道内に残る歴史的な地域資産の保存・活用をすすめるために、昨年からはスタートした北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座の募集が始まりました。今年度からは、より幅広く保存活用をすすめるために、受講資格の要件を広げています。

ヘリテージ・マネージャーは、建築士・学芸員に加え、技術士（建設部門）や施工管理技士（建築・土木）、またはそれらと同等の資格を有する方も講座を受講できます。コーディネーターの講座は、昨年と同様にどなたでも受講できます。

マネージャーは60時間、コーディネーターは30時間で、定員は各20名となっており、定員になり次第締め切りとなります。昨年度は10日間の申し込み期間で、38名の申し込みがありました。詳しくはHPをご覧ください。 <http://hjm.ipn.com> ☆申し込み期間：4月10日～5月11日